

兵庫県環境審議会全体会 会議録

開会の日時 令和7年8月1日
午前10時00分開会
午前11時25分閉会

場 所 兵庫県土地改良会館 6階会議室

議 題 (1) 審議会の運営に関する事項
① 会長及び副会長の選出
② 部会長及び部会所属委員の指名
(2) 点検・評価等に関する事項
① 第6次兵庫県環境基本計画 令和6年度点検・評価結果について
② 本県の環境学習・教育における行動計画の位置づけについて

出席者	会長	新澤 秀則	副会長	大久保 規子	委員	藍川 昌秀
	委員	浅利 美鈴	委員	阿保 勝之	委員	池 道彦
	委員	石黒 一彦	委員	伊藤 傑	委員	今井 良広
	委員	太田 英利	委員	川井 浩史	委員	越田 浩矢
	委員	後藤 忠徳	委員	近藤 明	委員	下川 秀美
	委員	杉山 裕子	委員	住本 陽子	委員	高畑 由起夫
	委員	谷勝 公代	委員	谷水 雅治	委員	椿原 健右
	委員	出口 智広	委員	寺門 靖高	委員	泥 俊和
	委員	中野 加都子	委員	西垣 由佳子	委員	能美 龍太郎
	委員	狭間 恵三子	委員	花嶋 温子	委員	福村 佳美
	委員	藤原 健史	委員	堀野 治彦	委員	増原 直樹
	委員	三橋 弘宗	委員	山根 浩二	委員	與語 信也

欠席者	7名			
	委員	正阿彌 崇子	委員	高橋 晃
	委員	橋本 寛	委員	藤原 拓
	委員	横山 真弓	委員	橋本 征二
			委員	宮川 雅充

会議の概要

開会（午前10時00分）

○ 議事に先立ち、福山環境部長から挨拶がなされた。

1 議事

(1) 審議会の運営に関する事項

① 会長及び副会長の選出

兵庫県環境審議会条例第4条第2項に基づき、会議に諮った結果、全会一致で会長に新澤 秀則委員、副会長に大久保 規子委員が選出された。

② 部会長及び部会所属委員の指名

兵庫県環境審議会条例第6条第2項及び第4項に基づき、名簿のとおり会長から指名された。

(2) 点検・評価等に関する事項

① 第6次兵庫県環境基本計画 令和6年度点検・評価結果について

② 本県の環境学習・教育における行動計画の位置づけについて

事務局から資料6～8について説明

以下、委員からの質疑があった。

(浅利委員)

資料7を中心に5点、質問と意見をしたい。P3では、温室効果ガス削減が難しく、近年▲16.9%と横ばい傾向と書かれているが、P16のまとめでは着実に進んでいるとの記載となっている。他のまとめも同様に今一度見直してほしい。P9を見ると温室効果ガス排出量は順調に▲21.0%まで削減されたところだが、リバウンドしているように見えるので、書きぶりは分析を含めて検討いただければと思う。

温室効果ガス削減量のように数字が出てくるものは比較的辛めの1となっているが、CO₂の吸収・固定は評価4となっている。カーボンニュートラルに向けては、排出と吸収のプラスマイナスで考えることになっているので、森林の吸収量も試算してみて、全体像を見てみればいいのではないかな。

廃棄物分野からのCO₂排出量はあまりターゲットになっていないと思うが、日本全体で資源循環が貢献できる余地がある部門の排出量の割合としては、温室効果ガス全体の36%、4割近いとも言われるので、廃棄物に特化してCO₂排出量を算定してもいいのではないかな。

また、専門ではないので教えてほしいが、P4、5で外来生物対策の推進は「評価5」となっており、P19にグラフがあるが、目標値が31種になっていて、目標値と評価に違和感がある。管理できているのか、減らすことはできないのか。他の事例など教えてほしい。

P27で「一般廃棄物の再生利用率は15%で全国平均をやや下回っている」となっているが、これは市町の取組が重要になるが、市町間の比較や頑張っているところもあると思うので、そこも記載いただければと思う。

(森田環境政策課長)

P3とP16の齟齬及びR3とR4の数値のリバウンドの記載については修正する。P2のCO₂の吸収・固定は高い評価になっているが、これらの指標は、先に説明したとおり、農林水産ビジョンから引用しているが、現在、農林水産部で見直しを進めているため、その改定にあわせて当指標も変更していく。P4、5の特定外来生物対策であるが、昨年度末、生物多様性ひょうご戦略を改定しており、計画においてもその指標を用いている。定着種数が31で、既に定着している種をなくすことは難しいため、まずは定着している種の生息域を減らしていくことが重要である。特に、ナガエツルノゲイトウ、クビアカツヤカミキリなど、生態系や産業に悪影響が大きいものから防除して、31種から増えないよう取り組んでいく。個別の種については、生息域の縮小に取り組んでいるが、生息域を定量的に数値化することが難しい。専門家の推進委員会なども設置しているので、そこで専門家の方々と議論して評価してまいりたい。

(吉村環境整備課長)

市町ごとのリサイクルについては、市町に対して毎年照会を行っており、一覧表にまとめてインターネット上で公開している。また、市町とは協議会を毎年開催して意見交換している。

廃棄物関連の温室効果ガス排出について、一定寄与があるというご指摘もいただいたので、温暖化対策の部署と数値の出し方について検討したい。

(花嶋委員)

資料 8 に小学校によるごみ処理施設の見学が含まれていない。1980 年ごろからかなりの率で小学生がごみ処理施設を見学するようになり、各焼却設備にも見学施設が設けられるようになった。その後、自分から参加できる環境教育という意味合いが学習指導要領に入れられたと思う。1980 年に小学校 4 年生、10 歳だった方が現在 54 歳になっているので、ご担当の方についても見学に行かれたと思う。自分から参加できる環境への貢献を入れていくことが重要ではないか。30 年、40 年たって昔のままの方式でやっているところもあるが、教育委員会とごみ処理施設との連携が難しいらしいので、県が項目として入れていただければと思うが、いかがか。

(森田環境政策課長)

資料 8 右側の体系表に「学校における兵庫型体験学習による環境体験の推進」とあるが、教育委員会も体験を特に重視する中で、ごみ処理施設の見学なども行われている。また、「家庭・地域・社会における環境学習・教育の推進」の中でも、「県民一人ひとりが環境問題を自分事として捉えて行動できる啓発の推進」とあり、子供も大人も我が事として捉えてもらえるよう環境学習を推進していく必要がある。具体的に記載はしていないが、体系の中ではそうした体験学習も含めており、今後も、環境部において各部局に施策を確認しながら、不足があれば施策の充実を図ってまいりたい。

(花嶋委員)

全国的に 9 割近くが粛々と訪れている大規模な事業だと思われる。どこかの項目に含めるのではなく、項目をあげていただいて記述していただければと思う。

(森田環境政策課長)

計画としては確定しているが、施策を進めていく中で、不足している部分や充実が求められる部分が出てくると思うので、今後、調査・確認していく中で対応するということがご了承いただきたい。

(新澤会長)

計画は限られたメンバーで議論しているので、今後も足りないことが出てくると思う。その中で今言われたように柔軟に対応することになると思う。

(藤原委員)

資料 7 それぞれの目標値が定められており、令和 12 年の最終目標値が書いてあるが、これがどこからきたものなのかを書いている項目と書いていない項目があり、元々ある目標値をもってきたものと、改めて設定しているものがあると思うが、疑問があるのは P29

の電子マニフェストの加入者数についてはこれまでの推移の延長線上に目標値を置いたのか、根拠が不明なところがあるがご説明いただけるか。

（森田環境政策課長）

参考資料 1 の計画本体の P114 以降をご覧ください。環境基本計画の指標のうち、個別計画の中で指標として定めているものは、その数値を採用している。個別計画の指標については、それぞれ専門家と協議しながら設定しており、また、各年度の目標数値については、2030 年度の最終目標に向けて 6 年間に割り戻すなどして対応している。

（吉村環境整備課長）

本体 P120 電子マニフェスト加入者数が記載されている。電子マニフェストの加入者数の推移をもとに設定している。

（藤原委員）

推移は目標値ではない。こうなるだろうという点にプロットするだけでは目標とは言わないのではないかと。これを目標とする、という意味決定・確認が必要ではないかと思う。

（森田環境政策課長）

環境基本計画の指標は、昨年度末に審議会での議論を経て決定したものであり、年度ごとの目標値については、最終年度の目標値を年度ごとに割り戻すなどして設定したものである。指標については、関係課と認識を共有しながら必要に応じて修正を検討してまいりたい。

（川井委員）

P2、4 で「漁場環境改善面積」が「CO₂の吸収・固定」と「里海の管理」の両方の指標として挙がっている。藻礁、漁礁を設置する面積が着実に増えている、改善がなされているということだが、それが CO₂の固定・吸収に効いているのかは、海藻が生えて初めて、CO₂を吸収・固定することになるので、両方の指標として入っているのは違和感がある。里海の管理としてはそのとおりだと思うが、CO₂の吸収・固定はどうか。

一つの指標が複数の項目に使われている項目があるが、もう少し慎重に検討するべきではないか。

（内田豊かな海再生推進官）

委員のおっしゃる通り、「漁場環境改善面積」は増殖場の造成工事などの面積を示しているものであり、どれほどの海藻類が繁茂しているかどうかの状況を把握しているものではないが、海藻が生えそうな基質があるので、一定の効果はあるものと考えている。

（望月水産漁港課長）

増殖場の造成後、どれくらい海藻類が繁茂しているかについては、一定期間ののち追跡調査しているものの、それが現存量としてどれくらい残っているのかは、把握できていない。ブルーカーボンのクレジット化の認定を受けているところがあるが、例えば須磨沖の増殖場については、これくらいの現存量があって、CO₂吸収・固定量についてこれくらい

の評価ができるとわかっている。そのほかについては、藻場の現存量の調査ができていないのが現状だが、一定の効果はあると考える。

(川井委員)

個別の評価を与えてしまうと、脱炭素の効果が4なのか、それがすっきりしない。複数の引用されている指標については、それぞれの部分での評価でなければならない。

(新澤会長)

事務局で検討できるか。

(森田環境政策課長)

それぞれの効果が反映できるような整理ができるようであれば、検討していく。

(藤原委員)

川井委員の意見に賛同するが、脱炭素分野に一般廃棄物排出量の削減があつて、もちろん資源循環にもあるが、同じ数字になっている。一般廃棄物排出量の削減とCO₂の削減は分けて算出すべきだと考える。

(花嶋委員)

電子manifestoについて、P6の表によると評価4という高い評価だが、年間manifesto件数中の電子化率はどれくらいか。

(吉村環境整備課長)

今、数値をもちあわせていない。個々の事業者に紙manifestoから電子manifestoに切り替えてほしいということで電子manifestoを導入している事業者数を目標に設定している。

(花嶋委員)

電子化率を目標にすべきではないか。電子化率が兵庫県は高いのか低いのかを勘案すべきではないか。全数の中でどのくらい電子化しているというのが大切なのではないか。

(吉村環境整備課長)

多量排出事業者の傾向に引っ張られて、小規模事業者の動向が反映しきれないのではないかと思う。ご意見を踏まえどのようにすればいいのか検討させていただく。

(藍川委員)

年度末に計画を策定したところであり、今の段階で目標を変更するのは難しいのではないかとと思われる。今回の指摘を残しておいて、次の改定の段階で反映できればと思う。その段階で、わかりやすく、適した目標にしていただければと思う。

(森田環境政策課長)

委員のおっしゃるように、実績値を置いてみると、評価に違和感を覚えるものもある。できたばかりの計画なので、指標の検討にあたっては、来年度以降の数値の推移をまずはみていきたい。

(狭間委員)

追加できる指標という観点で、次世代人材育成プログラム参加者数が評価1である。県が主催しているプログラムだと思うが、共創力をどのような指標で図っていくかは難しいが、県だけでなく県以外でも次世代育成をしており、それこそが共創力だと思うので、そういったものも吸い上げ、実績として示していただければと思う。

(森田環境政策課長)

次世代人材育成プログラム参加者数については、兵庫県地球温暖化対策推進計画の指標であり、3つの事業の参加者数を積み上げたものになっている。3事業以外にも次世代を対象にした事業はあるが、まずはこの3事業で推移を見ていこうと考えている。共創力の指標については、数値の進捗を管理することも重要だが、ひとつひとつの指標を管理するというよりは、トータルとして共創力を発揮して、脱炭素や自然共生、資源循環の取組が進むよう力点を置く必要があり、次世代の人材育成施策全体については、環境学習の調査の中で確認していきたい。

(福村委員)

脱炭素について、質問がある。県民として暑さや渇水が日々の私たちにどう影響するのか、どうやって身を守ればいいのか。協力しようという人は増えているが、気候変動にどう対処すればいいのか見えていない。県民一人ひとりが気を付けようというところを超えているなか、私たちはどのように備えていけばいいのか。地域の中で話し合う仕組みが環境学習や共創力のなかに入っているのか。環境基本計画の中でどこに位置付けられるのか。気になった。

(森田環境政策課長)

資料8の「家庭・地域・社会における環境学習・教育の推進」の中で、ひとりひとりの行動変容や自分事として取り組んでもらえるよう啓発等に取り組んでいる。県内にも熱心に取り組んでいる団体が多数存在するので、気候変動からどう身を守ればいいのかなどを話し合う場づくりが進むよう県民局などと協力していきたい。

(新澤会長)

適応についてはどこに書いているか

(森田環境政策課長)

参考資料1、P80の脱炭素の柱立ての中の「気候変動適応策の推進」で記載している。

閉会(午前11時25分)